

宇爾櫻神社天王踊り

【日 程】7月14日に近い日曜日※近年10月に変更

【場 所】宇爾櫻神社

【参加者】有爾中天王踊保存会、有爾中天王踊実行委員会等

【願 い】疫病退散、五穀豊穰、氏子安全



動画はこちら

天王踊は、有爾中地区の宇爾櫻神社の天王祭で奉納される踊りです。腰に取り付けて打ち鳴らす太鼓の特徴から、別名「有爾中かんこ踊り」ともいわれています。

起源は江戸時代の中頃とされていますが、大事な踊りが地区外に広まらないよう、練習風景を見せず、書き物で残さず、口伝えのみで受け継がれてきたため、資料は残されておらず詳しいことは分かりません。

踊りの特徴は、頭に白馬のしっぽの毛を使って円筒形にしたかぶり物を付け、かんこ鞆鼓と呼ばれる締め太鼓をおなかの前で固定し、両手のバチで打ちながらゆったりと踊る点です。

この行事はこれまでに何度も中断してきましたが、そのたびに地域の人びとの強い想いから復活し、近年は実施時期の変更や女性の参加を認めるなど、将来への継承を進めています。

踊りの演目

入り込み→りゅうがん流願→世の中・世の中打ち抜き→ヤナギ取り→キヨマクマ・頭打ち舞い込み・三つ願→舞い込み→廻りズーデン→綾踊り→流願

*この内容は平成30年(2018)度の実施した映像記録事業での聞き取り調査や過去の調査資料をもとに作成しました。内容が変更になっている可能性もあります。



宇爾櫻神社での踊り 大人はシャグマを被る



ヤナギ取り



綾子による踊り

キーワード：伝統行事、風習、天王踊り、かんこ踊り、有爾中
宇爾櫻神社、無形民俗文化財